

Q 8 これから，お年寄りの割合がどんどん増えてくる一方で，お年寄りとあまり接していない子どもたちが多くなっていると思います。このことから，お年寄りと子どもたちが触れ合う機会をもっと増やしていく必要があるのではないのでしょうか？

A そのとおりです。

そのため，子どもたちがお年寄りと触れ合う機会を増やすよう努めているところです。

子どもたちがお年寄りと触れ合うことは，豊かな経験・知識や人間の生き方を学び，高齢者を尊敬する気持ちや理解を深め，他人に対する思いやりの心や協調性などの社会性をはぐくむための良い機会です。

例えば，「全国子どもプラン（緊急3ヶ年戦略）」の中では，子どもたちがお年寄りと昔の遊びやものづくり等を通じて一緒に遊んだり，老人ホーム訪問や伝統行事等へ参加できる機会を用意しています。（Q5をご参照ください。）

また，学校の校舎などの整備についても，地域のお年寄りが訪れやすいようにいろいろと工夫していこうと考えています。

具体的には，学校に地域のお年寄りを招き，子どもたちとの交流を進めていくために，多様な交流が可能なスペースやくつろぎのスペースを整備したり，お年寄りが利用しやすいように施設の不便な障害を取り除くバリアフリー化を進めています。

また，子どもたちとお年寄りが日常的に触れ合える機会を設けるという観点から，デイサービスセンターや老人ホームと一体となって建てられている学校もあり，今後，このような学校の整備を積極的に推進していくこととしています。

その他にも，現在，全国の小中学校では，児童・生徒数の減少に伴い，授業などで使わなくなった教室が増えていることから，このような教室をお年寄りのためのデイサービスセンターに造り替え，お年寄りとの交流活動を積極的に行ったりもしています。（Q27をご参照ください。）

「ここは
こうするんだよ。」



「なあーんだ。
こうやれば
いいんだ!!」

高齢者福祉施設を利用する高齢者との交流を豊かにする学校施設



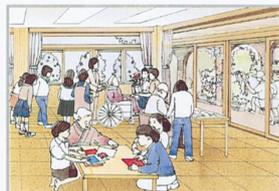
○遊歩道
児童が高齢者の介護の手伝いを通して交流を行う。



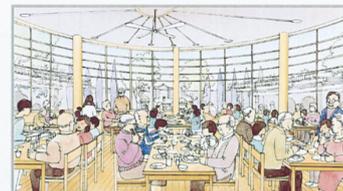
○老人ホーム
児童が老人ホームを訪問し、プレゼントをしたり、話し相手になったりする。



○小学校、デイサービスセンター玄関
高齢者の玄関を介して校舎、登下校時や休み時間に児童と高齢者があいさつや見送り等の自然な交流を行う。



○小学校 多目的スペース
高齢者が学校を訪れ、児童と交流活動を行う。



○小学校 ランチルーム
ランチルームに高齢者を招待し、ふれあい給食を行う。